

♪ 2023年度 *poco a poco* ♪

Nr. 4 2023年5月11日(木)

文責:プファイル・辰巳

あした天気になあれ!

雨が降ったり曇り空だったり、日本でいうところの「五月晴れ」にはなかなかありませんね。氷の聖人(Eisheiligen)の時期(寒の戻りのような寒い日がこの時期に訪れること)ではありますが、まずはさわやかに晴れわたった青空が見たいですね。

校内では運動会に向けての準備が始まりました。競技や応援の練習、各係の仕事の準備など、高学年や中学部のみなさんは、特に忙しくなりますね。低・中学年のみなさんの紅白帽子をかぶった姿も生き生きとしていて、運動会当日が楽しみです。



<音楽こぼれ話 音楽の中で活躍する鳥たち ② >

前回は、音楽の中で活躍する動物たちの第1回目として「鳥たち」に注目して、ヴィヴァルディの曲などを紹介しました。

鳴き声の特徴的な鳥ですと、「かっこう」を題材にした曲も思い浮かぶ人が多いのではないのでしょうか。童謡にもありますし、モーツァルトのお父さんレオポルト・モーツァルトが作曲した「おもちゃの交響曲」の中にも、モチーフとして出てきます。ベートーヴェンの交響曲第6番「田園」の中でも、耳をすますとかっこうの鳴き声のようなモチーフが聞こえてきます。スウェーデンの作曲家ヨナーソンの「かっこうワルツ」も有名です。

ドイツで畑の中を散歩しているとよく見かけたり、さえずりが聞こえたりするのが「ヒバリ」。空中で羽ばたきながら留まり、さえずっている(揚げ雲雀というそうですね。)ので、つい見とれてしまうほどです。このヒバリも、ハイドンの弦楽四重奏第67番「ひばり」やメンデルスゾーンの歌曲「おおひばり」などで活躍します。

姿が美しい鳥といえば、前回の白鳥のほかには、やはり「孔雀」を挙げねばならないでしょう。ラヴェルやコダーイといった作曲家の曲の中に登場します。

このように姿や鳴き声の美しい鳥たちは、音楽の中で大活躍するのですが、中にはちよっぴり嫌われ者なのに、よく登場する鳥がいます。そう、「カラス」です。

黒い姿が不気味に見えたり、ゴミをあさったりするので嫌われたり、どこの国でもあまり愛されていないような「カラス」。でも、童謡の中でも、クラシック曲の中でも、けっこう活躍するのです。

「～♪カラス、なぜ鳴くの?」や「一羽のカラスがカァカァ～♪」などは、すぐに思い浮かぶ童謡の一節ですね。クラシック曲では、シューベルト作曲の歌曲集「冬の旅」の中に「カラス」という曲があります。日本歌曲でも、中田喜直作曲の「六つの子供の歌」の第2曲が「カラス」という曲です。作詞は小川未明という詩人なのですが、その歌詞の最後の部分をご紹介します。

……前略

みんなから きらわれて

鳴き鳴き 飛んでいく

黒い衣(ベベ)を着かえてこい

金の帯をしめてこい

今度の世には 王様にしてやるぞ

中田喜直作曲、小川未明作詞のこの曲、ほかの5つの曲も合わせて「六つの子供の歌」を機会があれば試聴してみられてはいかがでしょうか。なかなか印象的な曲に仕上がっています。

このようにあまり好かれていないカラスですが、しばしば音楽の題材にされるということは、それだけ人間の生活との接点が多いということでしょう。「音楽の中で活躍する動物たち」…次回はどんな動物に登場してもらいましょうか?

ちよっとだけ 演奏会情報

Die Konzertsaison 2023-24 チケット予約は今がチャンス!

ドイツのコンサートシーズンは秋(夏休み明け)がスタートになります。今はちょうど今シーズンの終わりにさしかかっており、学校とともにオペラ座やコンサートホールにも夏休みがやってきます。演奏家たちはお休みする人もいれば、各地で開催される夏の音楽フェスティバルへと演奏旅行に出かける人もいます。そして秋、新しい演目が用意され、シーズンが始まります。コンサートホールや劇場の秋以降のチケットを入手するなら、今がチャンスです。インターネットなどで検索して、お好みのコンサートの情報を収集してみてください。

